

1. あいさつ

白山高等学校長 伊藤 毅 (いとう たけし) より

- ・本校地域の方々に、様々な学習活動の機会をいただいている。ありがとうございます。
- ・全校生徒 187 人で新年度がスタート。
- ・普通科 35 名、情報コミュニケーション科 27 名が入学。
- ・少子化の中、入学希望者の確保が大きな課題。
- ・新入生の 95%が「入学して良かった」と回答。
- ・生徒の意欲：「授業や行事・活動を頑張りたい」という声が多い。
- ・保護者の 6 割以上が「自主・自立の姿勢を育ててほしい」と希望、次いで「学力向上」。
- ・地域や外部教育機関と連携し、行事・学習活動を実施。
- ・三年生は通年インターンシップで毎週金曜に就労体験（地域の 9 事業所で実施）。
- ・二年生は白山地域の課題に取り組む探究活動を実施。
- ・高田短期大学と連携し、出前講座を年間 8 回予定。
- ・三重県高校総体で各部活動が出場。陸上男子円盤投げ 8 位、レスリングで 4 名全員入賞（2 名優勝）、ボクシング女子選手が東海大会出場権獲得。
- ・ボクシングで U17 アジア選手権の日本代表選手が 1 名。
- ・硬式野球部は 17 日に県大会の抽選会予定。
- ・「地域とともに子どもたちの成長を支える開かれた学校づくり」を推進。

2. 委員事項紹介

3. 協議事項

(1) 令和 7 年度 会長と副会長の選出について

会長：吉田委員 副会長 岩崎委員 を選出

(2) 令和 7 年度 「学校マネジメントシート」について

(学校長より報告)

○マネジメントシートの目的・性格

- ・経営効率化と中長期的なビジョン・行動計画を示す「見取り図」。
- ・一年間の計画だけでなく、将来的な学校の目指す姿も表現。
- ・毎年目標に向けて進める指針であり、改善を重ねるためのツール。
- ・資料はホームページでも公開、確認を呼びかけ。

○マネジメントシートの主な構成

- ・「目指す姿」：学校、教職員、生徒が目指す理想像。
- ・簡単に達成できるものではなく、意識を持ち続けることが重要。

- ・地域との連携・貢献、教職員の一丸となった姿勢、協働・コミュニケーション重視。
- ・「Graduation Policy（卒業ポリシー）」：生徒の卒業後の理想像。
- ・「Curriculum Policy（カリキュラムポリシー）」：教育活動の具体的目標（中長期重点目標内）。
- ・「Admission Policy（アドミッションポリシー）」：入学してほしい生徒像。
- ・卒業、カリキュラム、入学の三つのポリシーを柱とする。

○現状認識・地域連携

- ・地域の協力が厚く、学生活動・社会性への期待も大きい。
- ・学校も地域への還元を意識して取り組み中。

○今年度の重点課題

- ・「ユニバーサルデザインの授業づくり」の推進（昨年度の助言を受けて）。
- ・どの子どもも取り残さない教育環境の整備。

○中長期的な目標

- ・確かな学力の向上。
- ・規範意識の育成。
- ・地域の声（賛辞・助言・指摘）を大切にし、継続的に改善。

（質疑応答）

特に意見無し

（黒川教諭より 保健部に関する報告）

○保健教育の取り組み

- ・スクールカウンセラーを活用し、心身の健康維持や怒り・不安の軽減法を学ぶ機会を提供。
- ・助産師を招き、学年別に「女性の多様性」「妊娠・出産」について学習。
- ・高校生活や卒業後の人生に役立つ学びを重視。

○体育祭での新たな取り組み

- ・養護教諭と保健委員が協力し、熱中症予防を開会式で呼びかけ。
- ・生徒の力を活用した健康維持活動を今後も推進。

○困難な状況にある生徒への支援

- ・教職員の連携による「チーム学校」での支援体制を整備。
- ・担任や保健室だけでなく、全職員が適切な支援方法を身に付ける必要性。
- ・情報共有を密にし、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーとも連携。
- ・年間1回以上の研修を実施（今年度はすでに1回実施、今月も予定）。

○組織的な対応力の向上

- ・教職員が公的支援の視点を持ち、早期発見・未然防止を目指す。
- ・複雑な課題には外部専門家との連携も強化。
- ・保健部は聞き取り、連携・調整の役割を担う。

○保健室の業務

- ・保健教育、教員相談、カウンセラーによる教育相談を実施。
- ・昨年度の教育相談件数は 86 件。
- ・健康管理として各種検診、保健室来室生徒への対応（昨年度 1,457 件の来室）。
- ・応急処置や体調不良対応、心のケアを通じ教室復帰を支援。

○今後の方針

- ・生徒の健康と成長を支える活動を引き続き推進。

(質疑応答)

(進路指導部より 塩谷教諭)

○進路選択の課題と取り組み

- ・求人数は多いが、生徒が仕事を理解し「ここに行きたい」と自ら選ぶことが課題。
- ・生徒がやりたいことや続けられることを見つけるきっかけとして、企業講話などを実施。

○地域連携・キャリア教育

- ・商工連合会や地域企業と協力し、1年生から企業の話聞く機会を提供。
- ・6～7割が就職、ほとんどが地元・実家から通える範囲を希望。
- ・早期の情報提供で進路意識を高める。
- ・働く意識づけのため講演会も開催。

○教職員・保護者との連携

- ・7月から求人情報を共有し、進学・就職情報を適宜提供。
- ・卒業生招待イベントや文化祭で企業説明会を開催。
- ・保護者にも企業の話直接聞く機会を提供。

○新たな情報提供の工夫

- ・従来の資料展示から、アンケート形式で企業情報を PDF 化し、生徒に直接配信。
- ・生徒自身が企業の魅力に触れられるよう工夫。
- ・PTA 総会で保護者に周知し、自宅で進路相談を促進。

○成果と今後の展望

- ・現在 47 社分の情報をまとめ、生徒に提供。
- ・生徒の関心が高まり、「この企業はまだ来ていないか」という声も出る。
- ・1・2年生にも取り組みを広げ、早期から関心を高める。
- ・今後も企業や保護者の意見を参考に、工夫を続ける方針。

(質疑応答)

(総務部より 角谷教諭より報告)

○総務部の取り組み（地域連携キャリア教育・探究活動）

「地域連携に基づいたキャリア教育」、特に2年生の探究活動を推進。

- ・昨年度は A～F のグループで地域課題研究を実施、地域や企業の協力に感謝。
- ・今年度は 6 つのコースに分かれ、具体的な活動内容を生徒が検討中。

「ヒト モノ シゴトコース」「自然・観光・歴史コース」「名松線コース」「安心安全なまちづくりコース」「農業・食品コース」「地域の人だけコース」

- ・地域の協力が研究の充実に不可欠。委員から研究課題の提案も歓迎。
- ・名松線コースは来週、名松線開業 90 周年イベントの説明を受ける予定。

○情報発信（インスタグラム・ホームページ）

- ・総務部が担当し、インスタは生徒同士の活動共有を重視。
- ・複数の教員で更新を担当し、教員視点を加えた情報発信を実施。
- ・地域との共通認識を深めることを目指す。
- ・地域からの発信希望先の要望も歓迎。

（質疑応答）

（生徒指導について 西園教頭より報告）

○遅刻指導の方針と取り組み

- ・遅刻を叱るだけでなく、生徒と向き合い原因や改善策を一緒に考える姿勢を重視。
- ・登校遅刻と授業遅刻を分けて管理し、それぞれに応じた対応を実施。
- ・節目の回数（例：10 回、15 回）で担任が声かけを行い、必要に応じて校長まで連携。
- ・昨年度より遅刻数が減少、特に現 1 年生の授業遅刻が減っている。
- ・朝の駅での見守りやあいさつ、生徒会長の全校呼びかけで学校の雰囲気向上。

○地域美化活動

- ・地域クリーン作戦を今年も実施予定。
- ・4 月にはクラブ有志で自主的清掃活動を実施。
- ・部活動の枠を超え、地域への感謝を形にする活動を継続。

○教職員組織づくりと職場環境

- ・コンプライアンス研修を徹底し、不適切指導や体罰の防止に努める。
- ・特別な支援が必要な生徒対応で、外部コンサルタント研修を継続。
- ・教職員の健康や働きやすさ向上のため、水曜の早帰り・夏休みの学校閉庁日を推奨。
- ・校長のリーダーシップのもと「休むときは休む、やるときはやる」を徹底。

○学校運営の姿勢

- ・学校目標と現状を職員全体で共有。
- ・「急ぐべきことは急ぎ、じっくり考えることは時間をかける」方針で教育活動を推進。
- ・引き続き意見・協力を求め、職員一丸で取り組む。
- ・必要であればさらに短くまとめる、または表形式にすることも可能ですのでお知らせください。

【質疑応答】

(田中委員)

地域のために学校ができること 学校のために地域ができること お互いよくできていると思う。

(吉川委員)

・遅刻指導について、改善傾向にあるということによいと思う。

(中北委員)

・地域とのつながり 特色がある。

今年定員に満たなかった。来年は定員を満たせるよう、頑張っていたきたいと思う。

・白山町は小、中、高と人権教育を大切にしている地域である。人権教育を充実していただけるよう、よろしくお願ひしたい。

(西園教頭)

募集活動について 今年度の学校案内については改善を行いました。校長の思いや、学校として大切にしたい「3つの心」についても、中学校にしっかりアピールしていきます。

最後に、「普通科でどんなことを学ぶのか」「情報科で学ぶとはどういうことか」をしっかりと伝えていきたいと考えています。この取り組みについては、昨年外部の経営コンサルタントの方をお招きし、さまざまな研修を行ってきました。教育の目線だけでなく、企業のパンフレットや社内報を手がけてきたコンサルタントの視点からもアドバイスをいただき、「どこを工夫すればもっと思いが伝わるか」「どこを改善すれば効果的か」などの意見を取り入れ、パンフレットを作成しました。

作成には2~3カ月ほどかかりました。昨年度は1カ月程度で作ったため、正直、教育の専門家ではない目線が不足していたと感じています。今年は、「子どもたちに何を学んでほしいのか」をしっかりと考え、子どもたちの笑顔の写真を多く掲載し、文字情報は必要最低限にとどめ、見た人に印象が残るパンフレットを作りました。

今年はこのパンフレットを手に取り、全職員で地域を回り、白山高校をPRしていきます。昨年度は郵送が中心でしたが、今年は職員が直接足を運び、まずは10月4日の学校見学会に足を運んでいただけるよう働きかけます。今年は見学会の日程を昨年より約2週間早めました。8月の説明会は廃止し、10月4日が大きな勝負の日になります。このパンフレットを持って、ぜひ10月4日に白山高校に見学に来てください。

見学会では、普通科の「5教科の学び直し」に対応したユニバーサルデザインの授業や、商業・福祉の専門授業をそれぞれ体験していただき、実際の授業の様子を見ていただけます。今年全職員一丸となって、定員44名の目標に向け頑張ります。

パンフレットの裏面には、クラブ活動の様子も写真で紹介しています。これを通じ、白山高校がどんな学校で、どんな取り組みをしているかをきっと感じ取っていただけたらと思います。以上、今年のパンフレットについてご紹介しました。

- ・今年度の学校案内を改善し、校長の思いや学校が大切にしている「3つの心」を中学校にしっかりアピールする。
- ・「普通科で学ぶ内容」や「情報科の学び」を明確に伝えるため、昨年から経営コンサルタントを招いて研修を実施。
- ・教育以外の企業目線からのアドバイスを受け、伝わりやすいパンフレット作成に活かした。
- ・パンフレット作成に2~3カ月かけ、子どもたちの笑顔写真を多用し、必要な情報を絞った内容に。
- ・今年は職員がパンフレットを持って地域を巡り、直接PR活動を行う。
- ・昨年は郵送中心だったが、今年は10月4日の学校見学会に誘導する活動を強化。
- ・学校見学会は昨年より約2週間早め、8月の説明会は廃止。10月4日が重要な日となる。
- ・高校生活入門講座では普通科の5教科ユニバーサルデザイン授業や商業・福祉の専門授業を体験可能。
- ・今年は全職員が協力し、定員充足の達成を目指す。
- ・パンフレット裏面にはクラブ活動の写真を掲載し、学校の魅力を伝える。

(森沢委員)

学校・地域の関係性が深くなっているなど思う。先生方にはプレッシャーも重くなっているのでは。ときには「南無阿弥陀仏」という気持ちで臨んでください。

(八田医院)

- ・家城地区の世帯数 訳800 人口約1500人
1世帯2人 おじいさん、おばあさんとの同居 高齢世帯が多いのではないと思う。
地域お助け隊、地域の役に立ちたいと考えている生徒たちが活躍できる場もたくさんあるのでは。
社会福祉協議会白山支部とも連携できるのでは。
インターンシップでもお世話になっている。運動会のテント張りもがんばってくれた。
これからもよろしく願います。

(大西委員)

- ・先生方の熱意 ここで学ぶ生徒たちは幸せだと思う。ご苦労されることも多いとは思いますが、きめ細かい指導に熱意を感じる。何かでお役に立てることがあれば是非。
- ・知人で生徒たちにPCを教えてほしいという方がいる。今年もお願いしたい。

(二階堂委員)

- ・家城地区 高齢化、子供が少ない、若者が少ない。
白山高校の若い子を見ると、年寄も元気になる。生徒たちが、最近は元気に挨拶してくれてうれしい。
地域の高齢者に、生徒たちからどんだん声をかけていただけたら嬉しい。

(岩崎委員)

・白山高校のありかた 地域住民とのつながりが深い 都市部にある高校と、山村にある高校ではありかたが異なる中で、白山高校は地域とのつながりが深く、地域住民は勇気をいただいている。白山高校が今後も地域住民と一体になって、信頼される学校として募集活動を行ってほしいし、より良い在り方について皆と考えていきたいと思う。

4. 連絡事項

- ・第2回 11月15日(土) 13:30~15:00
- ・第3回 3月4日(水) 18:00~20:00

その他

(学校長より 挨拶)